中日新聞

2026年（令和8年）11月6日（金曜日）

お互いの名物ごはん登場

輪島と名古屋の中学 ランチで交流



石川県輪島市の郷土料理を食べながら、オンラインで現地の中学生と交流した北山中の生徒たち＝昭和区で

2024年元日の能登半島地震で甚大な被害を受けた石川県輪島市の中学校と、名古屋市の中学校で5日、お互いの名物や郷土料理が給食などで提供された。普段なかなか食べる機会がない自慢の料理を食べながら、交流を図った。

名古屋ではスクールランチを実施する約110校で、根菜類と大豆などを甘辛く炒め煮した「あいまぜ」と、具だくさんの豚汁「めった汁」の計約2万1400食分を提供。一方、輪島市では代表的な名古屋めしのみそかつと、きしめんの2種類が給食で出された。

ランチでの交流は、名古屋市内の中学生が学校の枠を超え、社会課題などを話し合う「名古屋市生徒会サミット」での取り組みがきっかけ。2年前に輪島市の中学生を名古屋へ招き、お互いがつながるための方策を話し合い、それぞれの名物を給食などで提供することを考えついた。昨年に教育委員会側に提案した。

この日は、サミットに参加したメンバーが在籍する北山中（昭和区）と輪島中を、昼食時間帯にオンラインでつなぐ交流も実施。北山中3年の佐枝里美さん（14）は「今回の昼食をきっかけに被災した輪島のことを思い出し、何らかの支援につながれば」と話した。（酒井博章）